

SERVIS™ Drawer

モニタドローア (8Port KVM Switch内蔵)

[FD-M008AT]

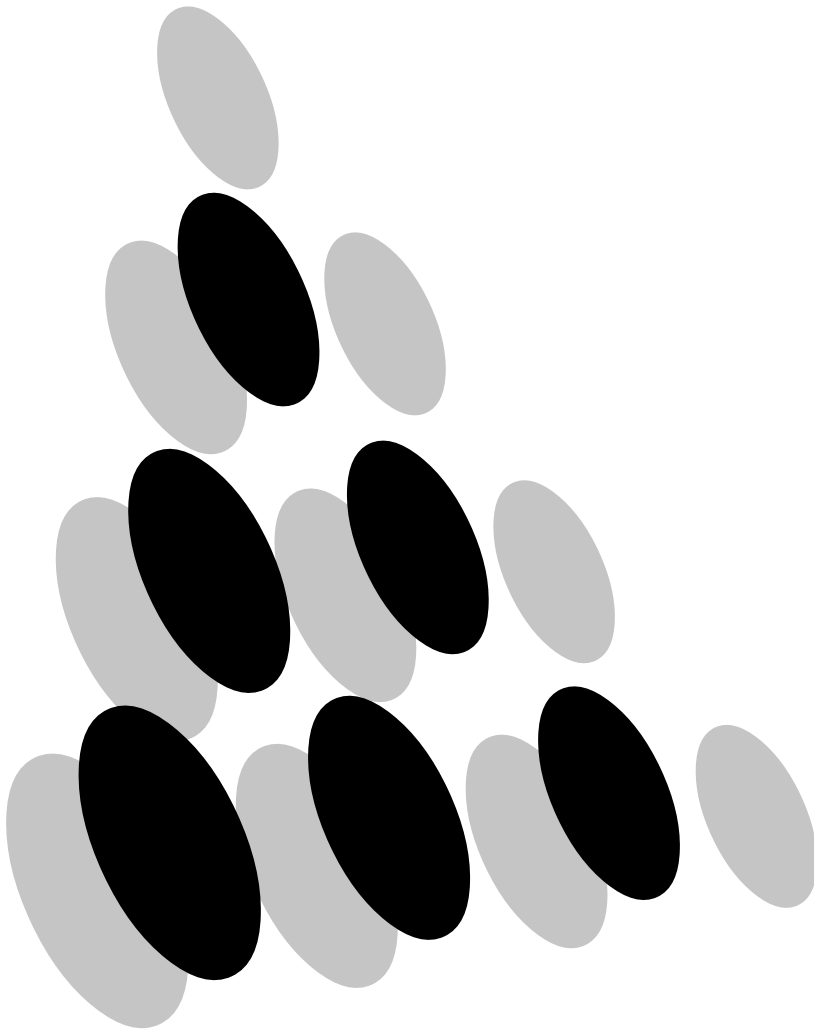
[FD-M008AT/W]

モニタドローア (16Port KVM Switch内蔵)

[FD-M016AT]

[FD-M016AT/W]

取扱説明書



本装置は、クラス A 情報技術装置です。
本装置を家庭環境で使用すると電磁妨害を引き起こすことがあります。
この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されていない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

その他の製品名等の固有名詞は、各社の登録商標または商標です。

目次

1.はじめに	2
1.1 表記規則	2
1.2 梱包品の確認	3
2.重要なお知らせ	4
2.1 安全性	4
2.2 廃棄について	6
2.3 本装置の運搬	6
3 取り付け	7
3.1 フロントブラケットの取り付け	7
3.2 ガイドレールの取り付け（タップありガイドレールの場合）	8
3.3 本製品の取り付け	9
4.各部の名称と働き	10
4.1 全体図	10
4.2 リアパネル	13
5.ケーブルの接続と取り外し	15
5.1 ケーブルの接続	15
5.2 KVMスイッチのカスケード接続	16
5.3 ケーブルの取り外し	17
6.操作	18
6.1 本装置の引き出し	19
6.2 モニタの調整	21
6.3 基本的な調整方法	22
6.4 解像度とリフレッシュレート	24
6.5 サーバの切替え	25
6.6 本製品の格納	36
6.7 本装置のお手入れ	37
7.技術仕様	38
8.トラブル対策	40
8.1 画面が表示されない	40
8.2 画面調節ができない	41
8.3 画面がおかしい	42
8.4 その他	43

1.はじめに

このたびは、KVM スイッチ内蔵モニタドローア（以降、本製品または本装置と呼びます）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品をお使いになると、ラック作業空間の効率とサーバ切替機能が大幅に改善されます。また、コンパクト設計のスライドモジュールの採用で、従来のソリューションに比べてより広くなるスペースを別のコンポーネントに利用できます。

17型TFTモニタの解像度は1280×1024で、表示色は1,677万色です。

本製品に接続できるサーバはDOS/V（PC/AT互換）機対応コンピュータです。なお、本取扱説明書は8ポート・16ポートKVMスイッチを共通となっております。特に注記が無い場合は、8ポートKVMスイッチを用いた説明になります。

*KVM スイッチ： Keyboard Video Mouse スイッチ

1.1 表記規則

この説明書で使用している記号と文字の意味は次のとおりです。



注意

- ・この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、及び物的損害（本製品またはサーバの損害など）が発生する可能性があることを示しています。

Point

- ・この記号のあとの文書は補足説明、注釈、ヒントです。

文頭に数字（1，など）がある場合は、順序にしたがっておこなう必要がある操作を示しています。

参照する章のタイトルと用語を強調する場合は、カギ括弧（「」）で囲んでいます。

1.2 梱包品の確認

次のものが、梱包されていることをお確かめください。

本装置本体	×	1
100V 用電源ケーブル (2m)	×	1
電源ケーブル抜け防止用タイラップ	×	1
フロントブラケット	×	2
フロントブラケット取り付けネジ	×	4
取扱説明書 (本書)	×	1
保証書	×	1

(保証書に必要な詳細がすべて記入されていることをお確かめください)

購入時の梱包箱および梱包品を保管しておくことをおすすめします。別の場所に移動するときに必要になることがあります。万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い求めの販売店または弊社担当までお申し付けください。



注意

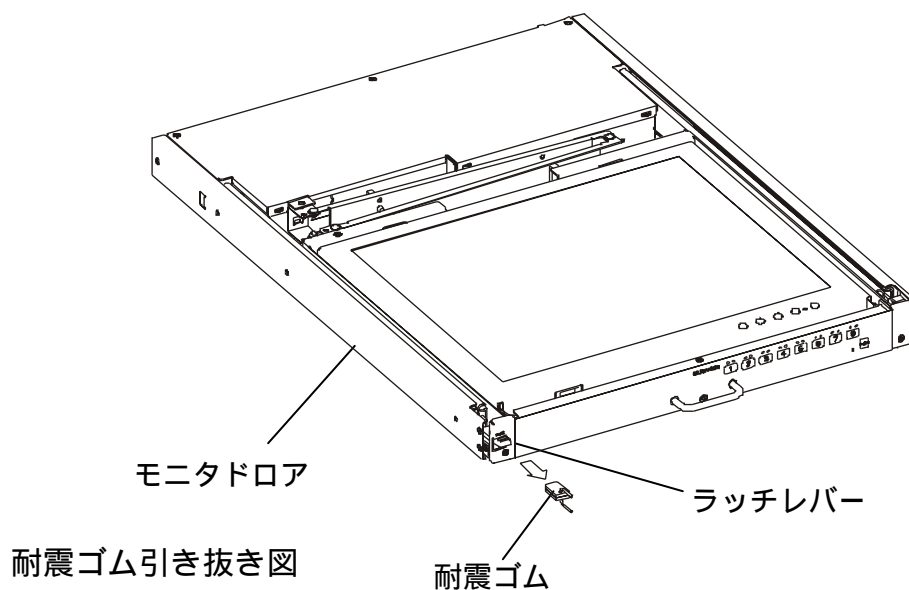
「重要なお知らせ」の安全情報に注意してください。

開梱時は本体に損傷がないか、配送品を確認してください。

本装置前面左の耐震ゴムを引き抜いてください。

Point

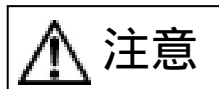
耐震ゴムは、ラック取り付け時やラックの移動中に本装置がスライドしないように差し込んであります。本装置をラックに取り付けた後も必要になることがありますので、必ず保管しておいてください。



2. 重要なお知らせ

この章には、本装置で作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

2.1 安全性



注意

安全上の注意

本装置は、事務オフィス環境で使用する電子事務用機器などの情報処理装置に関する安全規格に準拠しています。ご不明な点があれば、お買い求めの販売店または弊社担当に連絡してください。

本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。ただし、変形及び破損等がある箱は、使用しないでください、本装置が破損する可能性があります。

本装置の取り付け中と使用前に「技術仕様」の環境条件についての記事と「取り付け」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

本装置を寒冷な環境から暖かい場所に移動すると、結露を生じることがあります。装置が完全に乾燥し、周囲温度とほぼ同じ温度になってからご使用してください。

地域の線路電圧が本装置の使用動作範囲内であることを確認してください。（「技術仕様」と本装置の型式銘板を参照してください）。

本装置の電源ケーブルは特別に認可されたものです。改造等は行わずにご使用ください。感電、短絡の原因になります。

本装置の電源ソケットまたはラックの電源コンセントの周辺は、プラグの抜き差しがすぐできるようにしてください。

ケーブルが損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続したり取り外したりするときは「取り付け」の該当部分を参照してください。

雷雨のときは、データケーブルを接続したり取り外したりしないでください。

本装置の内部に異物（ネckレスやクリップなど）や液体が入らないようにしてください。

緊急の場合（筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など）は、ただちに装置からすべてのケーブルをはずして、お買い求めの販売店または担当保守員に連絡してください。

本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザが本装置を開いたり誤った修理をおこなうと、感電や火災などの原因になることがあります。

ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。

体調の悪い状態でのキー打鍵や長時間の連続キー打鍵は避けてください。

濡れた手での使用は避けてください。

濡れた手でコネクタの抜き差しをしないでください。

本装置の上には、液体等入ったコップなど不要な物をおかないでください。

改造または修理をしないでください。

警告マーク（稲妻マークなど）が付いている部品（電源装置など）の分解、取りはずし、交換は、資格のある人以外はできません。

「モニタの調節」で指定されている解像度とリフレッシュレートしか設定できません。それ以外の設定を行うと、モニタが損傷することがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店または弊社担当にご連絡ください。

周辺機器用のデータケーブルは、干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となります。線路電圧を切断するときには、接地電源コンセントから電源プラグを抜きます。

サーバを清掃するときは「本装置のお手入れ」にしたがってください。

本説明書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は、本説明書も譲渡してください。

本装置を引き出した状態で、脚立代わりに使用したり、よりかかったりすると、ラックが転倒する可能性があるため危険ですので、おやめください。

本装置を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。本装置を使用しない場合や本装置以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本装置をラック内に格納することを推奨します。

本製品には有寿命部品（LCDなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

本製品を安定した状態でご使用になれる期間（耐用年数）は5年が目安です。

1日8時間で月当たり200時間動作、使用環境が25℃を想定した場合の目安です。ただし、有寿命部品を除きます。



注意

ご使用上のご注意

ご使用の前に [ご使用上のご注意] をよくお読みの上、正しくご使用ください。ここに記載の注意事項はユーザ様への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので、必ずお守りください。

各コネクタの抜き差しはサーバの電源がOFFになっていることを確認してから行ってください。また、静電気にも充分注意し放電してから行ってください。静電気が貯まったままや、電源がONのまま抜き差しすると、サーバまたは本機の故障の原因となる場合があります。その場合の故障は保証対象外ですので、ご了承ください。

本機に接続できるサーバは、DOS/V(PC/AT互換)機です。但し、各サーバは下記のキーボード、マウスコネクタ及びモニタコネクタを装備した機種です。それ以外の機種ではご使用になれません。

キーボードコネクタ： ミニDIN6Pコネクタ（メス）

： USB A型コネクタ（メス）

マウスコネクタ： ミニDIN6Pコネクタ（メス）

： USB A型コネクタ（メス）

モニタコネクタ： Mini D-SUB 15Pコネクタ（メス）

サーバとの接続はオプションの専用ケーブル(PS/2用、USB用各0.7m・1.8m・3m・5m)をご使用ください。最大ケーブル長は5mです。カスケード用ケーブルはPS/2用1.8m品をご使用下さい。それ以上の長さは保証対象外ですので、ご了承願います。

サポート外の特仕仕様のキーボード(プログラマブル/ワイヤレス)/マウス(ワイヤレス等、専用ドライバ含む)は動作しませんので、適合するものをご使用ください。

本機 KVM スイッチのキーボードコネクタは PS/2 専用(6 ピン ミニ DIN メス)ですが、PS/2<->AT 変換コネクタを使用すれば AT タイプ(5 ピン DIN オス)のキーボードも接続できます。ただし、USB タイプのキーボードは接続できません。

本機 KVM スイッチのマウスコネクタは PS/2 専用(6 ピン ミニ DIN メス)です。シリアルや USB タイプのマウスは接続できません。

PS/2 ホイール付マウス等のスクロール機能を持つマウスをご使用になる場合、サポート外のスクロールは、正常に動作しないこともあります。また、サポートソフトによってはスクロールが正常に機能しなくなる場合があります。

キーボードとマウスのコネクタは同じ形状ですので、色等を確認し正しく接続してください。無理に差し込んだり間違えて接続すると、動作しないばかりか故障の原因となる場合があります。

コンソールのキーボード、マウスと各サーバの設定は正しく設定してください。設定が間違っていると正常に動作しません。

各ポートのケーブルは、同じサーバ内で接続してください。モニタとキーボード、マウスのポート番号が違っていると正しく選択できません。

DVI(Digital Video Interface)対応ディスプレイは接続できません。

本機のモニタ以外に接続するモニタは、マルチスキャン対応のディスプレイをご使用になり、解像度を正しく設定してください。KVM スイッチがサポートする解像度は、1600 × 1200、リフレッシュレート 75Hz までです。また、ご使用のモニタや解像度の設定によっては切替後表示がずれることが有ります。その場合はモニタかビデオカードで設定してください。

高解像度や接続環境でのゴーストやジミ等の画質劣化は、モニタケーブルやビデオカードが影響している場合が有ります。また、ディスプレイとビデオカードの組合せによっては、正常に表示出来ない場合も有ります。ビデオカード等の接続環境を変更してみてください。

モニタケーブルのコネクタは Mini D-SUB 15P です。コネクタの向きを確認し、固定ネジで確実に固定してください。確実に接続されませんとトラブルの原因となります。

カスケード接続は当社製 KVM スイッチだけで行なってください。他社製の切替器とは接続できません。

カスケード接続数はマスターも含め最大 2 段接続です。3 段以上の接続はできません。

サーバ、KVM スイッチ等を制御するには別途キーボード・マウスが必要となります。

ラックをより効率的に使用するにはキーボードドロア(FD-K000AT シリーズ)を推奨いたします。詳細はお買い求めの販売店にてご確認ください。

2.2 廃棄について

本装置は、金属、プラスチック部品および、液晶蛍光管の中には水銀を使用しています。廃棄するときは、各自治体の指示にしたがってください。

2.3 本装置の運搬



注意

本装置を別の場所に運搬する際は、購入されたときに本装置が入っていた箱か、衝撃や振動から製品を保護できる箱を使用してください。運搬処理がすべて完了するまで、開梱しないでください。

3 取り付け



注意

- ・取り付けの前に「重要なお知らせ」の安全情報をよく読んでください。
- ・設置環境を守ってご使用ください(「技術仕様」を参照してください)。ほこり、湿度、熱を避けてください。
- ・本製品は、重量が13.5kgありますので、必要の場合は、取り付けを2人以上でおこなってください。
- ・本装置とガイドレール間に、指や手を挟まないように注意してください。

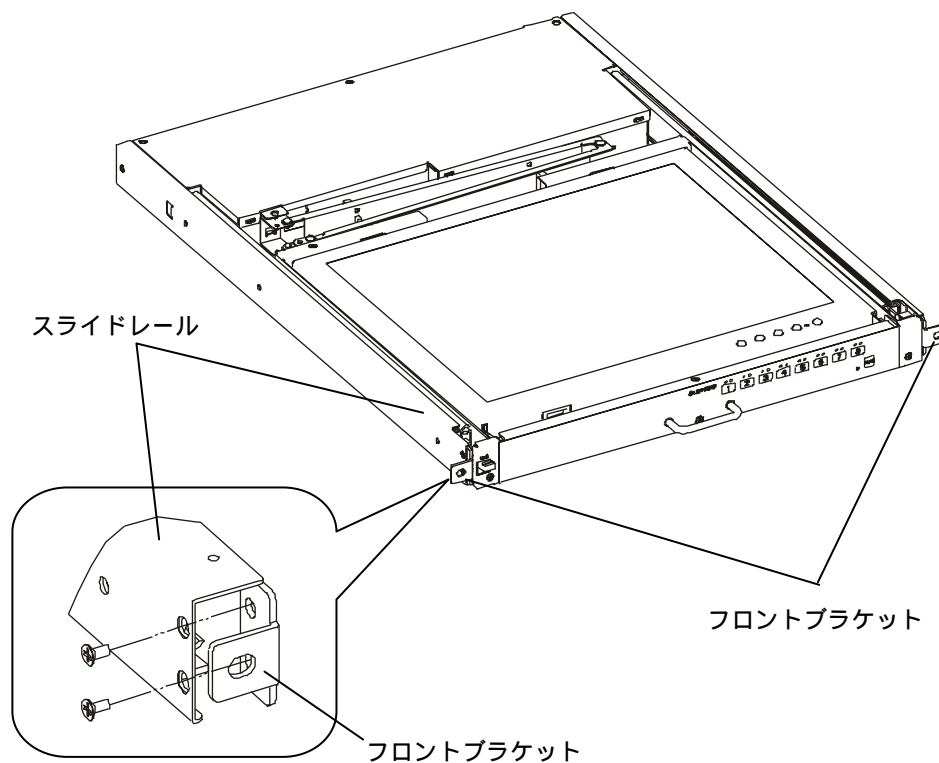
3.1 フロントブラケットの取り付け

本装置の前部左右の、本体とスライドレール間にフロントブラケットを入れます。スライドレールの外側から、2個のネジでフロントブラケットを固定します。



注意

- ・ /W の場合は、フロントブラケットの形状が異なります。



フロントブラケットの取り付け図

3.2 ガイドレールの取り付け（タップありガイドレールの場合）

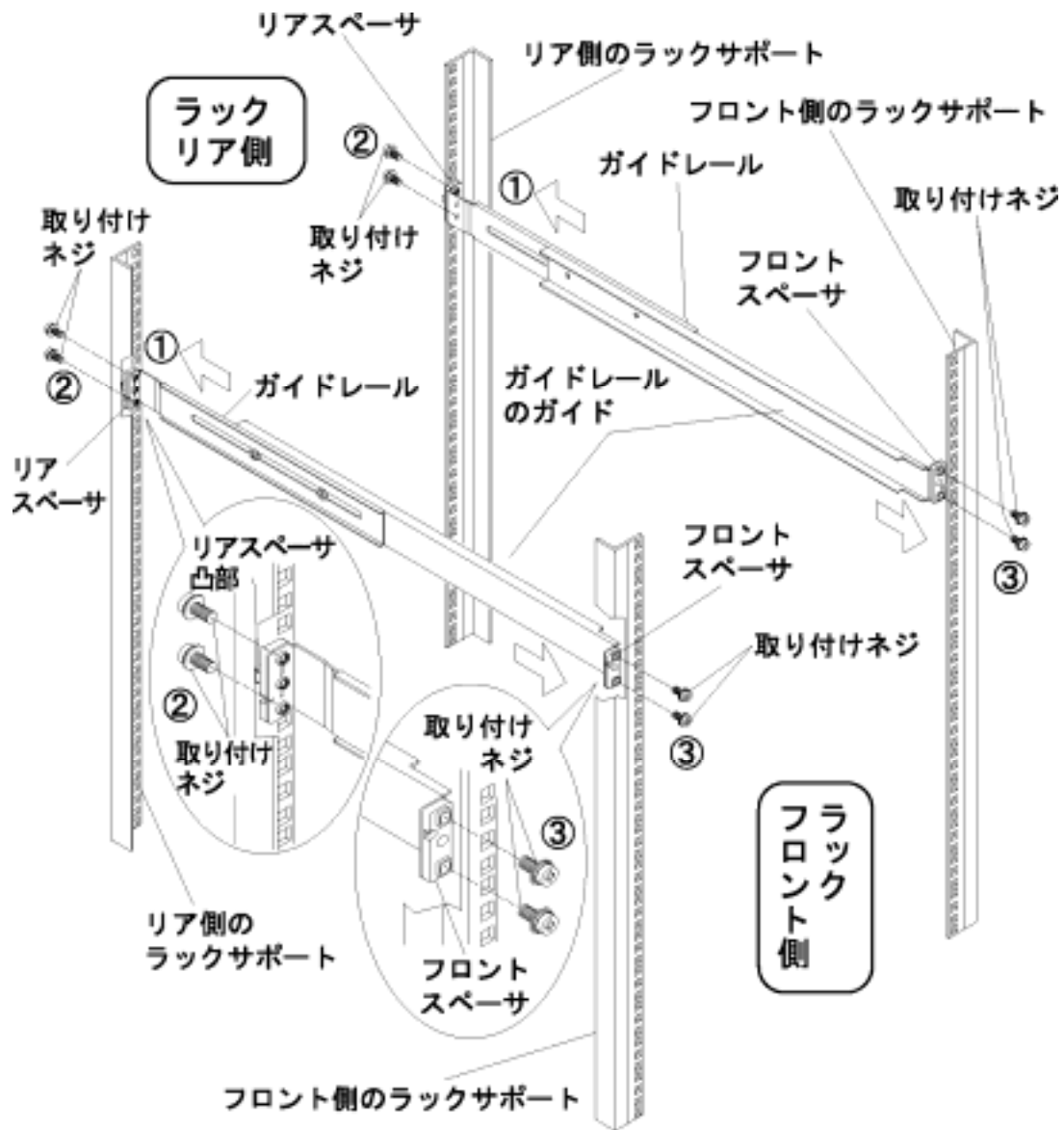
Point

- ・ガイドレールは、本製品が載せられるように、ガイドを前方、中側を向くように取り付けます。

ガイドレールのリアスペーサ凸部をリア側のラックサポートの穴に入れます。
ラックサポート外側からリアスペーサ上下の穴を取り付けネジで固定します。
(左右ガイドレールの高さは同じにしてください)

フロント側のラックサポート内側にガイドレールを合わせて、上下の穴を取り付けネジで固定します。

他のガイドレール取り付けについては、ガイドレールに同梱されている取付説明書を参照ください。



ガイドレールの取り付け図

3.3 本製品の取り付け

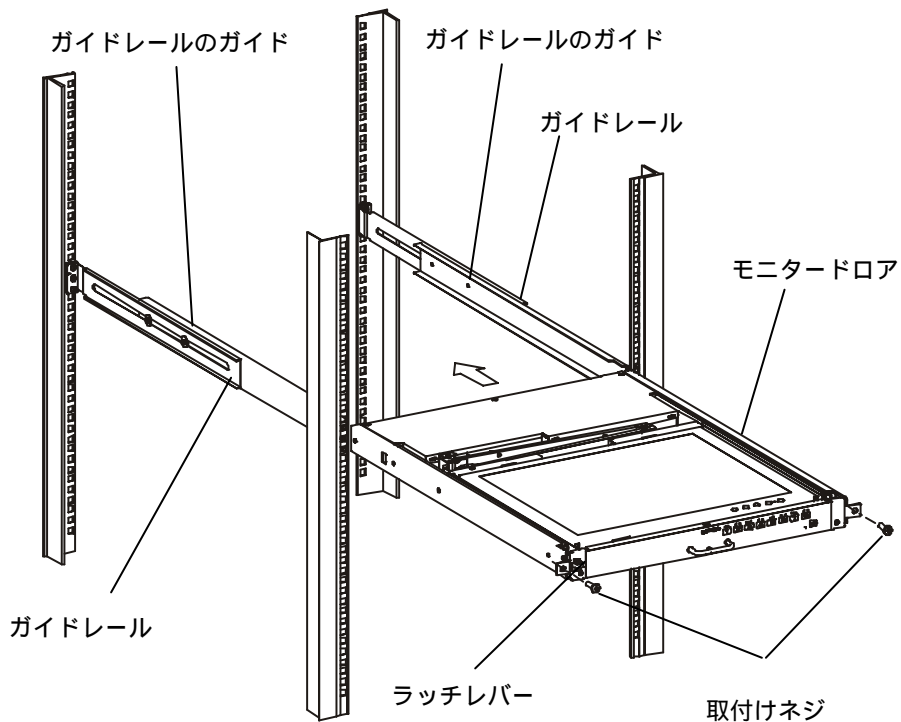


注意

- ・作業中にラッチレバーが解除されないように注意してください。ラッチレバーが解除されているとモニタドドアがスライドするおそれがあります。
- ・ガイドレールに本装置を取り付ける時は、2人以上で持って入れてください。電源ケーブルは接続しないでください。

ガイドレール前方から本製品を入れます。

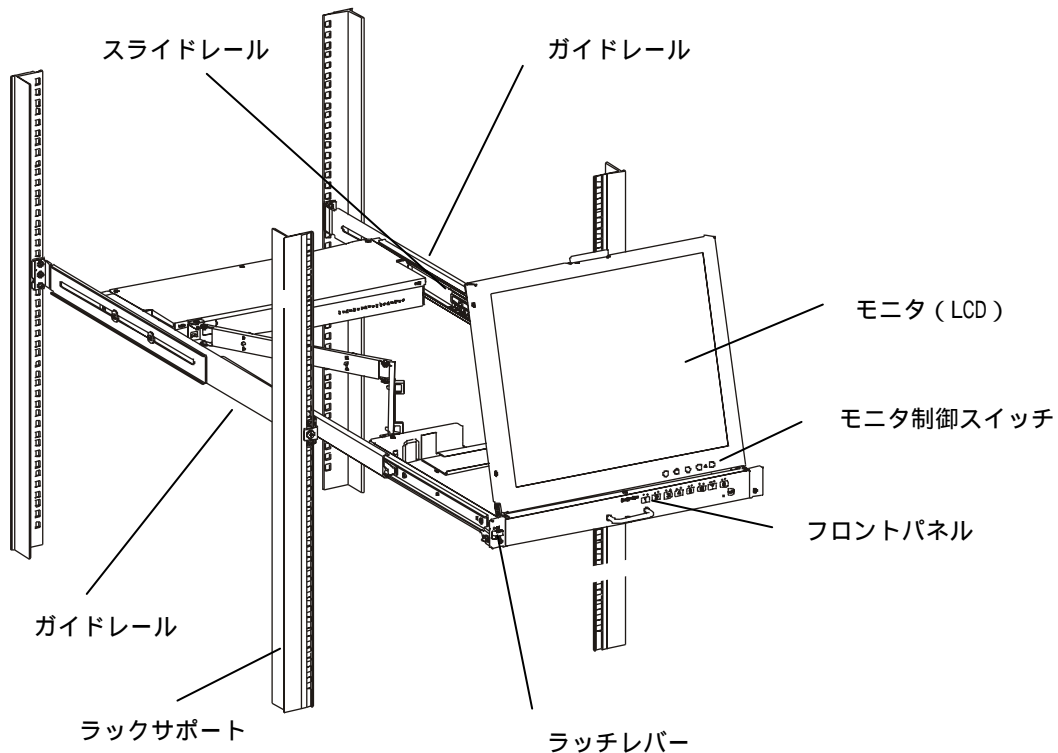
本製品が止まるまで押し込み、前面2カ所を取り付けネジで固定します。



モニタドドア取り付け図

4. 各部の名称と働き

4.1 全体図



ラックサポート

ガイドレールを取り付けます。

ガイドレール

本体をラックに取り付けるためのガイドです。

スライドレール

本体をラックから引き出したり、格納する際、本体がスライドします。

モニタ

サーバの状態やモニタのOSDを表示します。

モニタ制御スイッチ

モニタの電源ボタンや調整用ボタンです。(次頁参照)

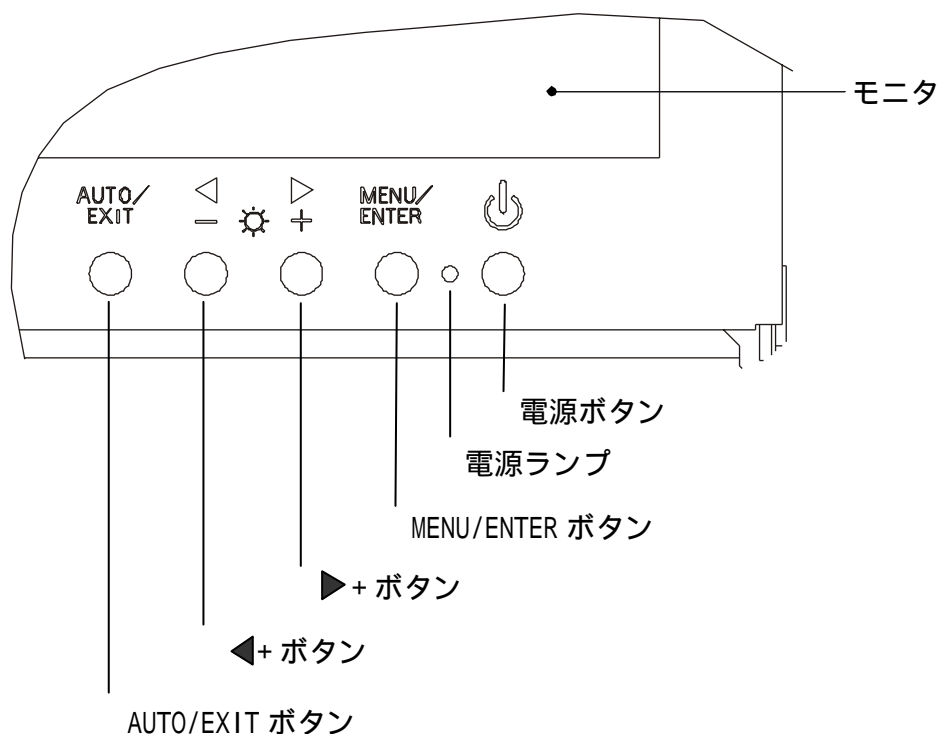
フロントパネル

サーバのセレクトスイッチやセレクトランプ等があります。(12P参照)

ラッチレバー

本体を引き出すときに押し下げます。

モニタ制御スイッチ



電源ボタン

モニタの電源を入れるときに押します。

また、電源が入っているときに押すとモニタのバックライトの電源が切れます。

電源ランプ

モニタの電源が入っているときに緑色に点灯し、省電力状態の時は橙色に点灯します。バックライトの電源が切れていると消灯します。

MENU/ENTER ボタン

メニュー画面の表示、調整項目の決定、設定値の保存する場合に押します。

▶ + ボタン

右方を選択するときや値を増やす方向に変化させる場合に押します。

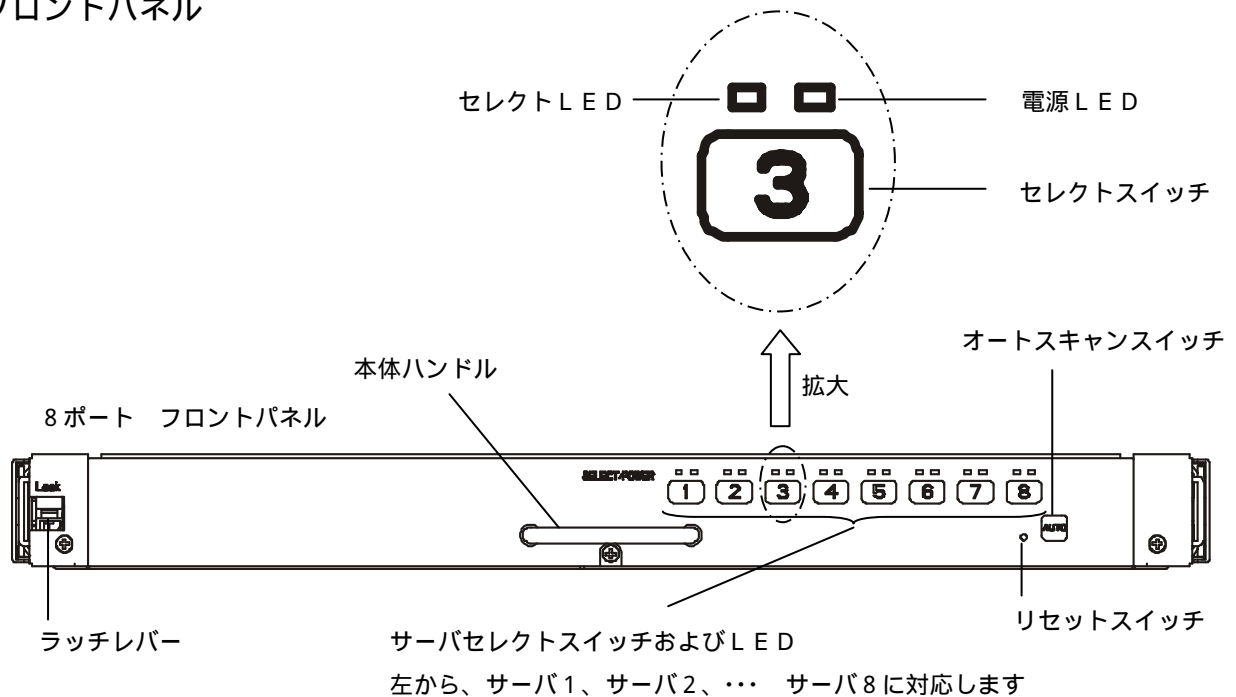
◀ - ボタン

左方を選択するときや値を減らす方向に変化させる場合に押します。

AUTO/EXIT ボタン

メニュー画面の消去、調節項目の取り消し、設定値の取り消し、自動調節する場合に押します。

フロントパネル



電源LED

サーバの電源がONのときに点灯します。

セレクトLED

サーバが選択されたときに点灯します。ホットキーモードの時は点滅します。

セレクトスイッチ

サーバを選択するときに押します。電源LEDが点灯していないサーバも選択できます。

オートスキャンスイッチ

サーバを自動的に切り替えたいときに押します。再度押すと、オートスキャンが停止します。

リセットスイッチ

万が一、サーバの選択ができなくなった場合やキーボード・マウスが操作できなくなったときに使用します。金属製のピン等で軽く押してください。

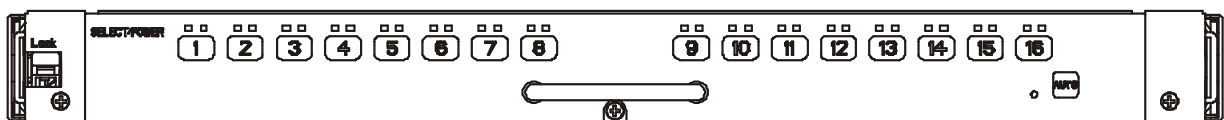
本体ハンドル

ラックから本体を引き出したり、格納するときに使います。

ラッチレバー

本体を引き出すときに押し下げます。

16ポート フロントパネル



4.2 リアパネル

8Port KVMスイッチ



8Port KVM スイッチ リアパネル図

電源ケーブル用コネクタ

電源ケーブル（AC100V用）コンセントを接続します。

[1 ~ 8]サーバ用コネクタ

本機の各ポート（1~8）とサーバのキーボード・マウス・モニタコネクタを専用ケーブルで接続します。

ディップスイッチ

色々な設定時に使用します。向かって左側から 1、2・・・8、上側 ON、下側 OFF となります。

キーボードコネクタ

PS/2 のキーボードコネクタ（紫）を接続します。

マウスコネクタ

PS/2 のマウスコネクタ（緑）を接続します。

モニタコネクタ

モニタを接続するコネクタです。

通常は、本装置のモニタケーブル（ ）を接続します。

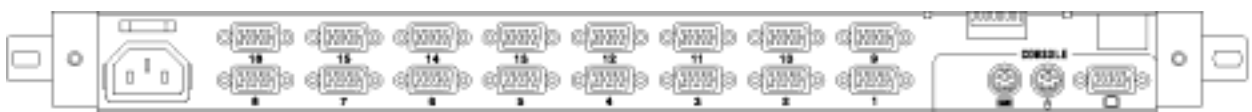
} コントロール接続用コネクタ

モニタケーブル

本装置のモニタ（17 ｲﾝﾁ LCD の）ケーブルです。

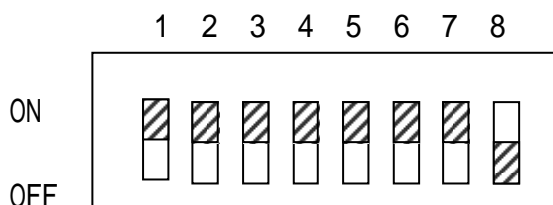
通常は、モニタコネクタ（ ）に接続します。

16Port KVMスイッチ



ディップスイッチ設定

以下は、出荷時の初期値設定となります。



*注. 側が SW 位置を示す。

ディップスイッチ機能

SW No	機能	ON 状態 / OFF 状態
1	ホットキー選択 <Ctrl>+<Alt>+<Shift>	ON:有効 / OFF:無効
2	ホットキー選択 <Ctrl> × 2 回	ON:有効 / OFF:無効
3	ホットキー選択 <Scroll Lock> × 2 回	ON:有効 / OFF:無効
4	各国キーボード設定 1	下表による
5	各国キーボード設定 2	〃
6	各国キーボード設定 3	〃
7	各国キーボード設定 4	〃
8	本機電源常時設定	ON:本機は常に電源が入った状態となります OFF:いずれかのサーバの電源が入った時、本機は電源投入の状態となります

各国キーボード設定

各国設定	SW4	SW5	SW6	SW7
日本語	ON	ON	ON	ON
US	ON	ON	ON	OFF
UK	ON	ON	OFF	ON
German	ON	ON	OFF	OFF
French	ON	OFF	ON	ON
Spanish	ON	OFF	ON	OFF
Swedish	ON	OFF	OFF	ON

5. ケーブルの接続と取り外し



注意

- ・ケーブルを接続する前に、本装置に関する説明書を読んでください。
 - ・添付されている電源ケーブルをご使用ください。
 - ・雷雨の時は、ケーブルを接続したり取り外さないでください。
 - ・取り外すときは、ケーブルではなく、プラグ部を持ってください。
 - ・ケーブルの接続と取り外しは次の順序にしたがってください。
-

ケーブルの接続方法を接続します。（次頁の接続例1を参照）

5.1 ケーブルの接続

まずはじめに

ご使用の環境に合わせてディップスイッチを設定します。

また、各サーバの電源コードがコンセントに接続され、電源がOFFされていることを確認してください。（ の接続確認）

サーバとの接続

KVMスイッチ1段使用の場合（本機1台使用の場合）

サーバは最大8台まで接続可能です。

- 1) 1台目のサーバのキーボード/マウスコネクタ及びモニタコネクタに専用ケーブルを接続し（ を接続）、次に本機のサーバ用コネクタ Mini D-SUB 15Pin（メス）に専用コネクタ（黒色）を接続します。（ -a接続）Mini D-SUB 15Pinは、固定ネジで確実に固定してください。
- 2) 2～8台目も同じ要領で接続します。

CONSOLEとの接続

- 1) キーボードを接続します。（ 接続）
- 2) マウスケーブルを接続します。（ -a接続）
- 3) モニタケーブルを接続します。（ -b接続）

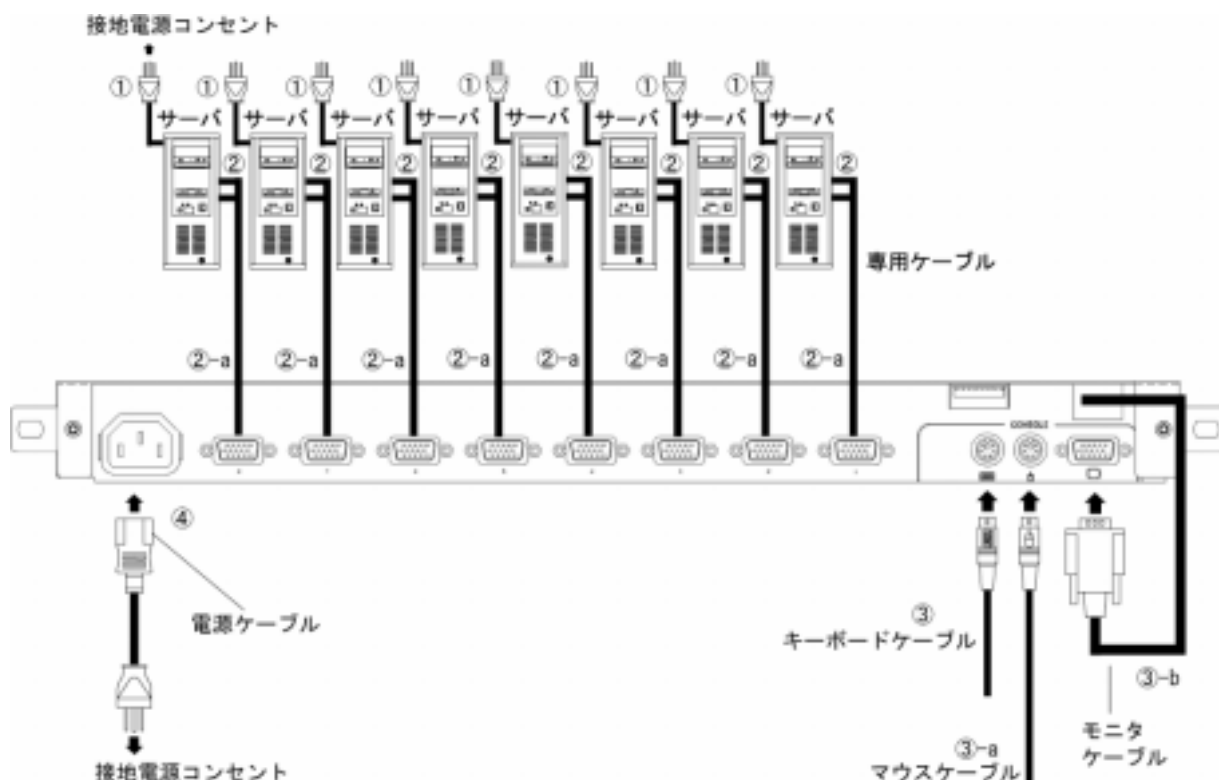
電源ケーブルの接続

電源ケーブルを本製品に接続します。電源ケーブルが抜けないようにタイラップで結束します。次に電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

Point

- ・モニタ用コネクタ（Mini D-SUB 15Pin）の接続は、固定ネジで確実に本製品およびサーバに接続してください。
 - ・確実に接続されないと、画像が乱れることがあります。
-

接続例 1 . 一般的な接続



5.2 KVMスイッチのカスケード接続

KVMスイッチをカスケード接続することにより、最大64台のサーバを接続できます。

2段目のKVMスイッチ（スレーブと言います）に [1段使用の場合] と同じ要領で1～8台のサーバを接続します。（ **を接続** ）

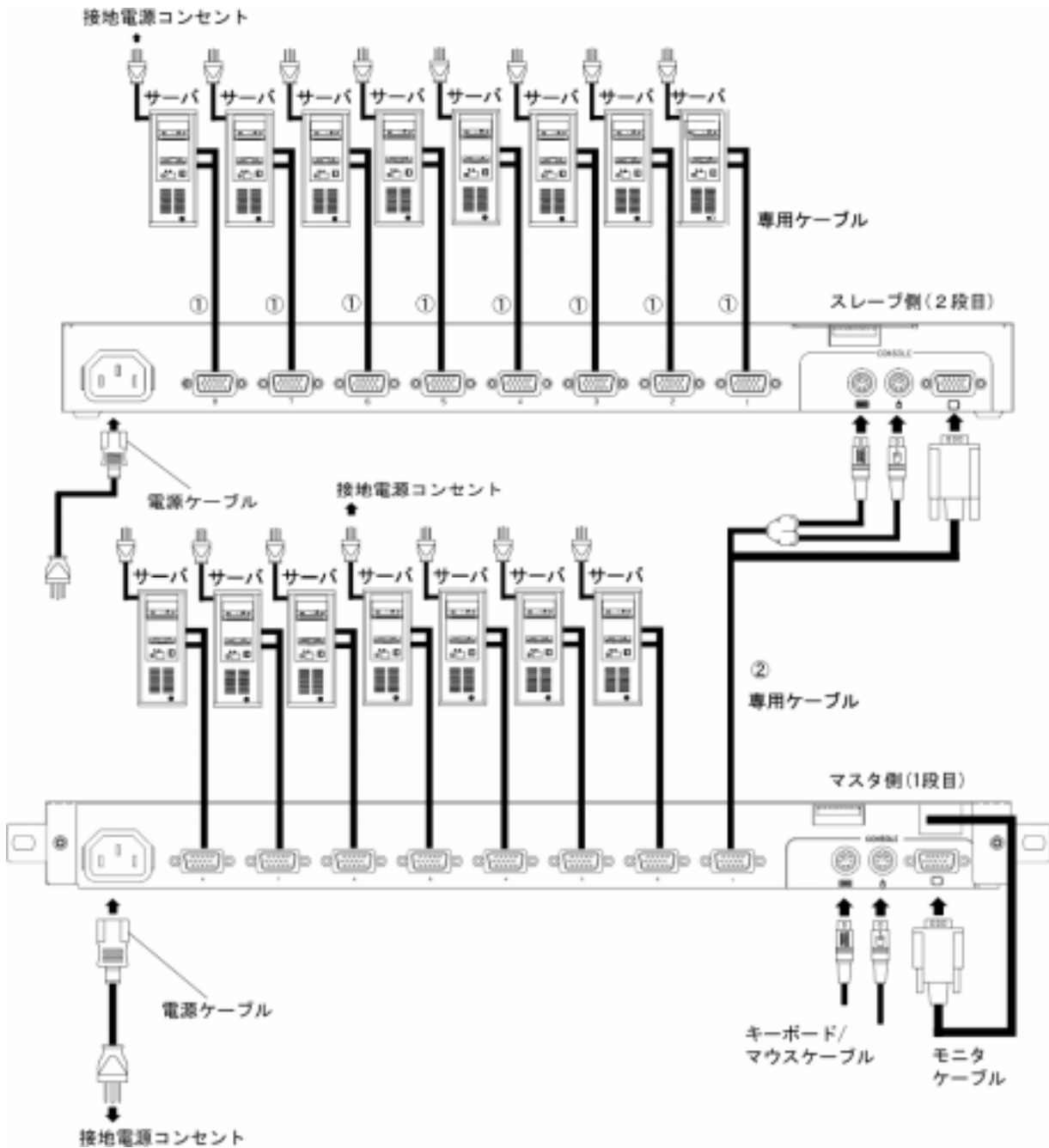
本装置のサーバ用コネクタと、スレーブのコンソールポートの間を専用ケーブルで接続します。（ **を接続** ）

さらにサーバを増設する場合は、上記、の要領で接続してください。
スレーブ接続は、必ず2段までとしてください。3段接続はできません。

Point

- ・本装置とスレーブ間を接続するケーブルは、PS/2用の1.8m専用ケーブルを使用してください。他のケーブルでは、正常に動作しません。

接続例 2 . KVMスイッチのカスケード接続



5.3 ケーブルの取り外し

影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いてから、各ケーブルを取り外してください。

6. 操作



- 引き出した状態で完全なロックはかかりませんので、もたれ掛かると本製品は動いてしまいます。
 - スライドモジュールの引き出し、押し込み時やモニタ部の開閉時などを実施する際には、手を挟まないよう十分注意して実施してください。
 - 本製品を引き出しているときやモニタ部を開いていて使用している場合に、強い力を加えると、ラック自体が転倒するおそれがありますので注意してください。
 - モニタ画面を強く押したり、硬いものでこすったり、磁石などを近づけないでください。破損の原因になります。
 - 本製品を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。
 - 本製品を使用しない場合や本製品以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本製品をラック内に格納することを推奨します。
-

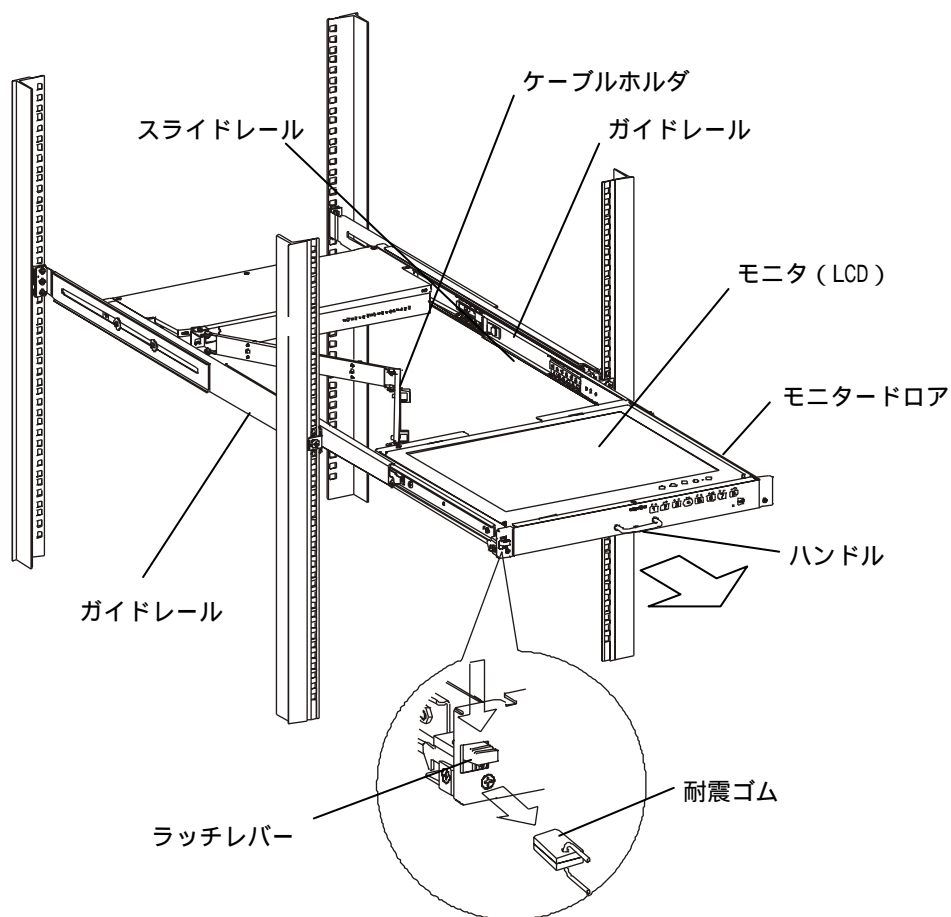
6.1 本装置の引き出し

耐震ゴムを引き抜いていない場合は、引き抜いてください。

モニタドドア前面左側のラッチレバーを押し下げ、ハンドルを持ってモニタドドアを一番手前まで引き出します。

Point

・本装置が、前面部2本の取り付けネジでラックに固定されていることを確認してから引き出してください。



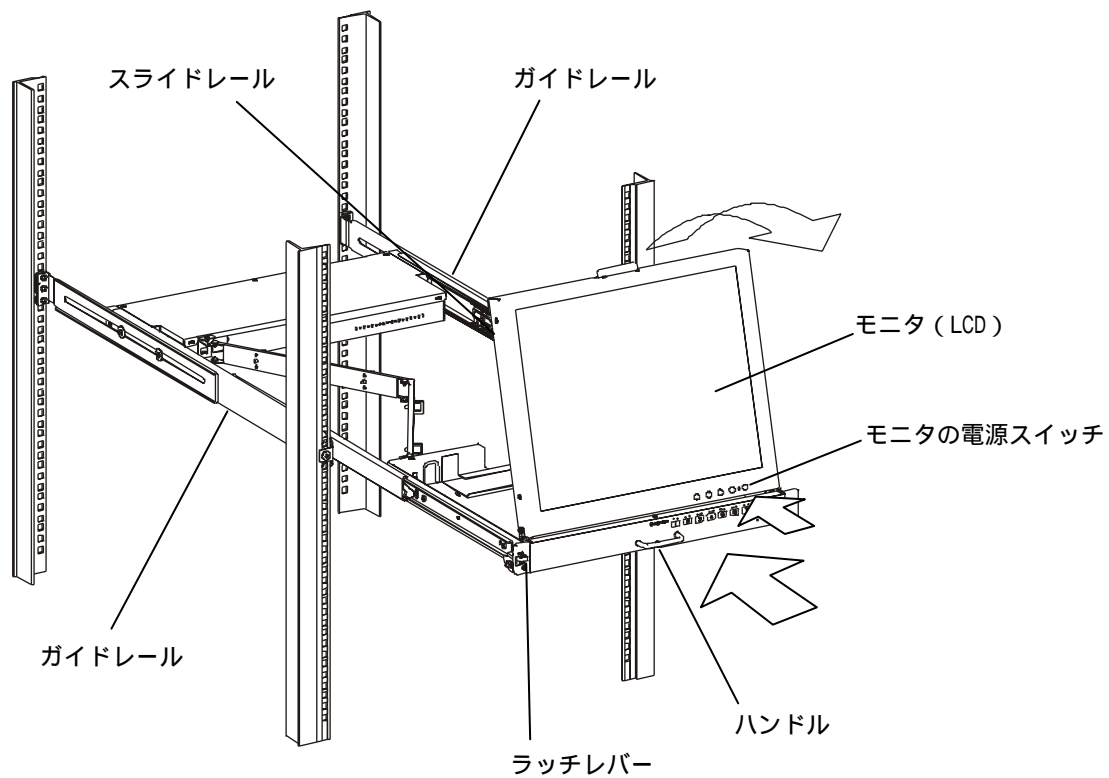
モニタドドアの引き出し図

モニタの上部を持ち、モニタを手前に引き起こします。
モニタは、完全に引き起こしてください。

操作しやすい位置までハンドルを持ち、軽く押し込んでください。
なお、その際はモニタ背面が上部の装置にぶつからないようご注意ください。

電源ボタンを押して、モニタの電源を入れます。

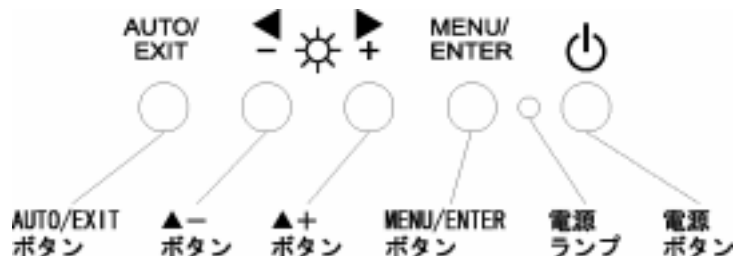
接続している各サーバの電源を入れます。



モニタ部開閉図


6.2 モニタの調整

モニタ部には、1つのLEDと5つのボタンがあります。



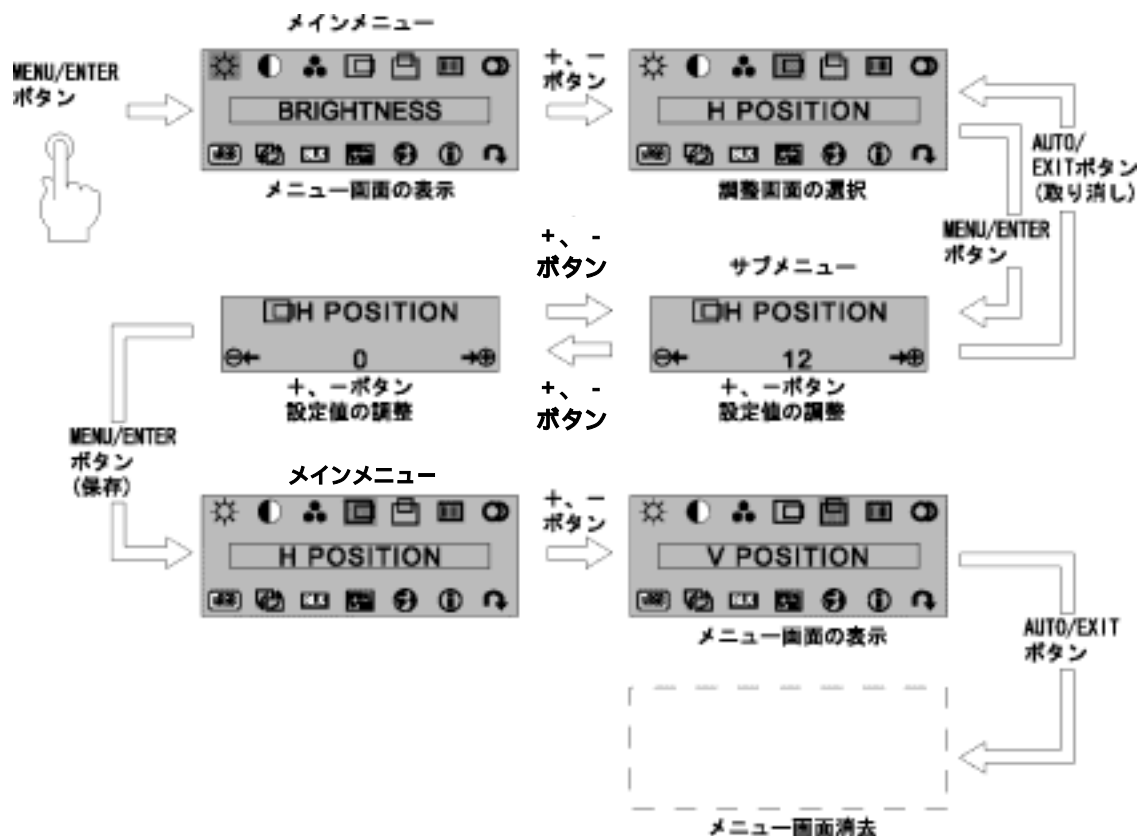
- 電源ボタン : モニタの電源を入れるときに押します。また、電源が入っているときに押すとモニタのバックライトの電源が切れます。
- 電源ランプ : モニタの電源が入っているときに緑色に点灯し、省電力状態のときは橙色に点灯します。バックライトの電源が切れていると消灯します。
- MENU/ENTER ボタン : メニュー画面の表示、調整項目の決定、設定値の保存する場合に押します。
- ▶+ ボタン : 右方を選択するときや値を増やす方向に変化させる場合に押します。
- ◀- ボタン : 左方を選択するときや値を減らす方向に変化させる場合に押します。
- AUTO/EXIT ボタン : メニュー画面の消去、調節項目の取り消し、設定値の取り消し、自動調節する場合に押します。

Point

- ・メニュー画面を表示させずに、▶+、◀- ボタンを押すと、画面の明るさ (BRIGHTNESS) を直接調整することができます。
 - ・メニュー画面を表示させずに、AUTO/EXIT ボタンを押すと、自動調整 (POSITION と FOCUS) をおこないます。
 - ・画面のノイズは、設定メニューの Phase および  Clock の調整で除去できます。
-

6.3 基本的な調整方法

モニタの画面調整は、モニタ画面（LCD画面）の下にあるボタンでおこないます。基本的な調整手順を下記に示します。



MENU/ENTER ボタンを押します。

メインメニューが表示されます。

+、- ボタンを押して、メニュー（調整項目）を選びます。

ENTER ボタンを押します。

サブメニューが表示されます。

+、- ボタンを押して、設定値を調整します。

MENU/ENTER ボタンを押します。

設定値が保存され、メインメニューが表示されます。

+、- ボタンを押して、別のメニュー（調整項目）を選びます。

または

AUTO/EXIT ボタンを押して、メインメニュー画面を終了します。

メインメニューの項目（調整項目）を下表に示します。

記号	英語表示	調整内容
	BRIGHTNESS	画面全体の明るさを調整します。
	CONTRAST	画面全体の濃淡の強さ（コントラスト）を調整します。
	COLOR	画面の表示色を調整します。固定値の設定や赤/ 緑/ 青の色合いを個別に設定できます。
	H POSITION	表示位置を左右に調整します。
	V POSITION	表示位置を上下に調整します。
	CLOCK	帯状(縦)のノイズが発生する場合に調整します。
	FOCUS	文字のにじみや画面の水平方向のノイズが発生する場合に調整します。
	SRGB	sRGB のON/OFF の切り替えができます。
	PICTURE MODE	コントラストカーブの切り替えができます。中間調での表現を変えることができます。
	BLACK LEVEL	黒色のオフセット基準を任意に設定できます。
	TEXT MODE	DOS 画面表示時の解像度を設定できます。 英語DOS時は、720 × 400を選択してください。
	INFORMATION	現在表示されている解像度、垂直同期周波数および各種調整項目（一部を除く）の設定値を表示します。
	LANGUAGE	表示言語を変更します。
	RECALL	ご購入時の設定値に戻します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ READJUSTING 全項目に戻します。 ・ GEOMETRY 表示している解像度(モード)の画面位置、クロックおよびフォーカスを戻します。 ・ COLOR ブライツネス、コントラスト、黒レベル、およびカラー調整に戻します。

6.4 解像度とリフレッシュレート

解像度	水平周波数(kHz)	垂直周波数(Hz)	モード
640 × 400	31.5	70	VGA 400 LINE
640 × 480	31.5	60	VGA Standard
	37.5	75	VESA
	37.9	72	
720 × 400	31.5	70	
800 × 600	35.2	56	
	37.9	60	
	46.9	75	
	48.1	72	
1024 × 768	48.4	60	
	56.5	70	
	60.0	75	
1280 × 1024	64.0	60	
	80.0	75	
1152 × 900	61.9	66	Sun コンポジット
	71.8	76	
1280 × 1024	71.4	67	



注意

- ・電源投入直後やOS 起動時または終了時には画面の表示位置がずれたり、画面が点滅したり、乱れたりすることがありますが故障ではありませんのでそのままご使用ください。
- ・1280 × 1024以外の解像度もすべてフルスクリーン表示となります。
- ・1280 × 1024以外の解像度では、文字の輪郭がはっきり見えなかったり、細かなストライプの太さが揃わなかったりすることがあります。これは、擬似的に拡大表示（フルスクリーン表示）しているためであり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。
- ・画面上の一部に点灯しないドットや常時点灯するドットが存在する場合がありますが、液晶ディスプレイの特性であり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。

6.5 サーバの切替え

各サーバの選択方法は、セレクトスイッチ、OSD表示（ホットキーモード）の2種類の選択方法があります。また、選択中のサーバの電源をOFFにした場合はその状態が保持されますので、その場合は選択したいサーバをセレクトスイッチまたは、ホットキーモードで切り替えてください。

選択されたポートに接続されているサーバのみ、キーボード/マウスの操作が有効になり、その他のサーバには操作データは送信されません。

但し、選択されていないサーバであっても、サーバからのコマンド処理は常時おこなわれているため、各種のモード（キーコードモード、LED状態、タイパー設定、マウス出力モード等）は切り替え時に反映します。

6.5.1 電源投入時のサーバ選択

すべてのサーバが電源OFF状態から電源が投入された場合は、最初に電源ONしたサーバが自動的に選択されます。

同時に投入された場合には、1 2 3・・・ 8の優先順位で選択・接続されます。

6.5.2 ホットキーモード選択

ホットキーモードはA及びBの2種類が有り、ホットキーモードの表示方法には、次の3つの方法があります。

ホットキーモードA

<Ctrl>、<Alt>、<Shift>キーを同時に押した後離す。

<Scroll Lock>キーを2回押す。（<Scroll Lock>キーは素早く連続押下してください。）

ホットキーモードB

<Ctrl>キーを2回押す。（<Ctrl>キーは素早く連続押下してください。）

*ディップスイッチによってそれぞれ有効/無効の設定が可能です。

ホットキーモードに入ると画面上にOSD（On Screen Display）画面が表示されます。

また、キーボードのScroll Lock LEDが早い点滅となります。

他のLED（Num Lock LED、Caps Lock LED）は消灯します。

ホットキーモード中はキーボード/マウスの入力はできません。以下に各接続時の表示を示します。

* 選択中サーバからの画像（H/V Sync）信号が無い場合（サスペンド状態）は、他ポートの画像（H/V Sync）信号でOSDメニューを表示させます。このとき、OSDメニューは5秒周期で点滅します。

選択中のポートに画像（H/V Sync）信号が入力されれば、通常状態へ戻ります。

* H Sync :水平同期信号

* V Sync :垂直同期信号

ホットキーモード A

1) カスケード接続無し時の OSD 画面

SERVER SELECTION	
MASTER	SLAVE
1	SV1-XXXXXXXXXX
2	SV2-XXXXXXXXXX
3	SV3-XXXXXXXXXX
4	SV4-XXXXXXXXXX
5	SV5-XXXXXXXXXX
6	SV6-XXXXXXXXXX
7	SV7-XXXXXXXXXX
8	SV8-XXXXXXXXXX
ARW	:SELECT
ENT	:SET
TAB	:CHANGE NAME
N	:NEXT PAGE

(実際のサーバ名表示とは異なります)


2) カスケード接続時の OSD 表示

SERVER SELECTION	
MASTER	SLAVE
1	SV1F1 SV5-1-XXXXXXXXXX
2	SV2F2 SV5-2-XXXXXXXXXX
3	SV3F3 SV5-3-XXXXXXXXXX
4	SV4F4 SV5-4-XXXXXXXXXX
5	SV5F5 SV5-5-XXXXXXXXXX
6	SV6F6 SV5-6-XXXXXXXXXX
7	SV7F7 SV5-7-XXXXXXXXXX
8	SV8F8 SV5-8-XXXXXXXXXX
ARW	:SELECT
ENT	:SET
TAB	:CHANGE NAME
N	:NEXT PAGE

カスケード接続しているチャンネル選択時の OSD 表示

【画面の説明】

数値表示 1~8 及び F1~F8(カスケード接続されているとき)は、サーバ接続ポートを示します。また、数値表示が緑色に表示されている場合は、接続されているサーバの電源が ON になっていることを示します。

 は現在選択されているサーバを示します。

紫色に表示されている文字列が、現在カーソルキーで選択されているサーバです。

SV1-XXXXXXXXXX は、ポート 1 に接続されているサーバ名を示しています。

画面下部にはキー操作の簡単な説明が表示されます。

カスケード接続されている場合の表示は、スレーブ側(背景色 = 青の部分)に表示されます。(上記表示例でチャンネル 5 は、カスケード接続されています)

マスター側画面表示中に、選択するチャンネルがカスケード接続されている/接続されていないにより OSD 画面は以下の通りに変わります。

- ・カスケード接続していないチャンネルを選択したときには、マスター側画面に 14 文字表示しスレーブ側には何も表示されません。(OSD 画面はカスケード接続していない場合と同じ)
- ・カスケード接続しているチャンネルを選択したときには、マスター側画面に 3 文字表示しスレーブ側画面に 14 文字を表示します。

3) カスケード接続時のマスター・スレーブ表示変更(ホットキーモード A)

The diagram illustrates the 'SERVER SELECTION' screen in two states. The top state shows a list of 8 servers (SV1-F1 to SV8-F8) with 14 characters for the Master side and 5 for the Slave side. The bottom state shows the same list but with 5 characters for the Master side and 14 for the Slave side. Arrows indicate the transition: a downward arrow labeled '<Shift>キー-on で 14文字表示' and an upward arrow labeled '<Shift>キー-off で 表示復帰'.

マスター側のカスケード接続しているチャンネル選択時の表示例(左側)と、スレーブ側のチャンネル選択時の表示例(右側)

【画面の説明】

マスター側のカスケード接続しているチャンネル選択時、またはスレーブ側のチャンネル選択時の OSD 画面にて<Shift>キーを押下すると、画面表示がマスター側を 14 文字、スレーブ側を 5 文字表示し、<Shift>キーを離すと元の画面表示に戻ります。

ホットキーモード B

<Ctrl>キーを 2 回押してホットキーモード B に入ると、画面左上に 1 行の OSD 表示をします。

【画面の説明】

画面左上にサーバ名称が OSD 表示されます。
 切り替える前は、文字の背景が赤色で表示されます。
 切り替えた後は、文字の背景が青色になり接続を完了し、ホットキーモードを終了します。
 約 3 秒後に OSD 表示が消えます。

OSD 画面でのサーバ切替方法

ホットキーモード A での切替え

<Ctrl> + <Alt> + <Shift>キーの同時押下、及び<Scroll Lock>キー 2 回押下からホットキーモード A に入ると、以下の様な OSD 画面を表示します。

SERVER SELECTION	
MASTER	SLAVE
1 SV1F1	SV5-1-XXXXXXXXXX
2 SV2F2	SV5-2-XXXXXXXXXX
3 SV3F3	SV5-3-XXXXXXXXXX
4 SV4F4	SV5-4-XXXXXXXXXX
5 SV5F5	SV5-5-XXXXXXXXXX
6 SV6F6	SV5-6-XXXXXXXXXX
7 SV7F7	SV5-7-XXXXXXXXXX
8 SV8F8	SV5-8-XXXXXXXXXX

ARW: SELECT 0: AUTO SCAN
ENT: SET ESC: EXIT
TAB: CHANGE NAME
N: NEXT PAGE

カスケード接続での、ホットキーモード A 表示例

a. [キーボード操作]

- 1) OSD 画面左側のサーバ番号のチャンネルを、カーソルキーの< >を使用して選択します。
- 2) このとき、カスケード接続されている場合は選択されたチャンネルに応じて、画面右側にカスケード接続されているサーバの状態が表示されます。
- 3) カスケード接続されている場合は、カーソルキーの< >を押すと画面右側のカスケードの状態表示部の文字列が紫色に表示され、その文字列が有効になります。このとき、< >を押すと画面左側に戻ります。
- 4) 同様にカーソルキーの< >を使用してチャンネルを選択します。
- 5) <Enter>キーを押すと実際に切り替えがおこなわれます。切替後は画面左上に約 3 秒間切り替わったサーバの名称が表示されます。

Point

- ・ 16Port KVM スイッチ接続の場合は、Port の 1~8 が選択されているとき <Page Down>で、9~16Port が表示されます。また、<Page Up>で 1~8Port に切り替わります。
-

b. [キーボードによる直接選択]

8 ポート KVM スイッチ

- 1) キーボードの<1>~<8>キーでおこないます。カスケード接続の場合は、はじめにマスター側を<1>~<8>キーでカスケード接続されているポートを選択し、スレーブ側を<F1>~<F8>キーで選択します。

16 ポート KVM スイッチ

- 1) マスター 1 選択 : キーボードの<1>押下 (1 秒後確定) または、<1> + <Enter>
- 2) マスター 14 選択 : キーボードの<1><4>押下 (<1>押下後は 1 秒以内に<4>を押下してください)
- 3) マスター 2 選択 : キーボードの<2>押下 (即確定)
- 4) カスケード接続の場合は、はじめにマスター側のカスケード接続されているポートを選択します。
スレーブ 1 選択 : <F1>押下 (即確定)
または<F> + <1>押下 (1 秒後確定) または + <Enter>
スレーブ 14 選択 : <F> + <1> + <4>押下
(<1>押下後は 1 秒以内に<4>を押下してください)
スレーブ 2 選択 : <F2>押下 (即確定) または<F> + <2>押下 (即確定)

このキー操作により、直接画面を切り替えることができます。

切り替えた後は、画面左上に切り替わったサーバ名称が表示され、約 3 秒後に OSD 表示が消えホットキーモードを終了します。

c. [マウス操作]

キーボード操作と同様にマウス操作で OSD を操作できます。

- 1) OSD 画面左側の KVM スイッチのチャンネルをマウススクロールの< >< >を使用して選択します。
- 2) このとき、カスケード接続されている場合は選択されたチャンネルに応じて画面右側にカスケード接続されている本体の状態が表示されます。
- 3) カスケード接続されている場合は、マウスの<右ボタン>を押すと画面右側のカスケードの状態表示部の文字列が紫色に表示され、その文字列が有効になります。このとき、<左ボタン>を押すと画面左側に戻ります。
- 4) 同様にマウススクロールの< >< >を使用してチャンネルを選択します。
- 5) <中ボタン>を押すと実際に切り替えがおこなわれます。切替後は画面左上に約 3 秒間切り替わったサーバの名称が表示されます。

Point

・カスケード接続時のポート選択は、初めにマスター側のカスケード接続ポートを選択します。その後スレーブ側のポートを選択し、切り替えます。

ホットキーモード B での切替え

<Ctrl>キーを 2 回押してホットキーモード B に入ると画面左上に OSD 表示をします。

<Ctrl>キーは素早く連続して押してください。)

文字の背景が赤色に表示されているときに、切り替えたいサーバの番号キーを押すことにより画面が切り替わります。

a. [キーボードによる直接選択]

8 ポート KVM スイッチ

- 1) キーボードの<1>~<8>キーでおこないます。カスケード接続の場合は、はじめにマスター側を<1>~<8>キーでカスケード接続されているポートを選択し、スレーブ側は<F1>~<F8>キーで選択します。

16 ポート KVM スイッチ

- 1) マスター 1 選択 : キーボードの<1> 押下(1 秒後確定)または、<1> + <Enter>
- 2) マスター 14 選択 : キーボードの<1><4>押下
(<1>押下後は 1 秒以内に<4>を押下してください)
- 3) マスター 2 選択 : キーボードの<2>押下(即確定)
- 4) カスケード接続の場合は、はじめにマスター側のカスケード接続されているポートを選択します。

-
- スレーブ 4 選択 : <F1>押下 (即確定) 又は
<F> + <1>押下 (1 秒後確定) または + <Enter>
スレーブ 14 選択 : <F> + <1> + <4>押下
(<1>押下後は 1 秒以内に<4>を押下してください)
スレーブ 2 選択 : <F2>押下 (即確定) または<F> + <2>押下押下 (即確定)

このキー操作により、直接画面を切り替えることができます。
切り替えをおこなうことでホットキーモードから抜けます。

文字背景が赤色の場合は、サーバへのキー入力、マウス操作はできません。
文字背景を、青色の画面に切り替えたい場合 (ホットキーモードを終了したい場合) は、該当する番号キーまたは、<ESC>キーもしくは<Enter>キーを押してください。
文字背景が赤色の時、<0>(ゼロ)キーを押すと Auto Scan モードに切り替わります。
Auto Scan は次の方法にて終了します。

- <Enter>キー : 現在表示している画面に切り替わります。
- <ESC>キー : Auto Scan を始めたときのサーバに戻ります。

[Auto Scan モード]

- 1) ホットキーモード中に、キーボードの<0>キーを押すと、一定の周期で自動的に画面が切り替わります。
- 2) 切り替えの速さを調整したい場合はキーボードの< >キーで速くなり、< >キーで遅くなります。キーを押す毎に 3/5/10 (初期値) /20/40/60 秒の範囲で切替周期を選択できます。このとき切替周期時間を OSD に表示し、3 秒後に表示は消えます。
- 3) 電源 OFF のサーバはスキップします。
Auto Scan 中はサーバへのキー入力、マウス操作はできません。
- 4) ホットキーモードに移行したい場合は Auto Scan モードを終了してからおこなってください。
- 5) Auto Scan は次の方法にて終了します。
 - <Enter>キー : 現在表示している画面に切り替わります。
 - <ESC>キー : Auto Scan を始めたときのサーバに戻ります。

6.5.3 サーバの名称登録・変更

SERVER SELECTION	
MASTER	SLAVE
1	SV1F1 SV5-1-XXXXXXXXXX
2	SV2F2 SV5-2-XXXXXXXXXX
3	SV3F3 SV5-3-XXXXXXXXXX
4	SV4F4 OSV5-4-XXXXXXXXXX
5	SV5F5 SV5-5-XXXXXXXXXX
6	SV6F6 SV5-6-XXXXXXXXXX
7	SV7F7 SV5-7-XXXXXXXXXX
8	SV8F8 SV5-8-XXXXXXXXXX
ARW:SELECT 0:AUTO SCAN	
ENT:SET ESC:EXIT	
TAB:CHANGE NAME	
N:NEXTPAGE	

SERVER SELECTION	
MASTER	SLAVE
1	SV1F1 SV5-1-XXXXXXXXXX
2	SV2F2 SV5-2-XXXXXXXXXX
3	SV3F3 SV5-3-XXXXXXXXXX
4	SV4F4 OSV5-4-XXXXXXXXXX
5	SV5F5 SV5-5-XXXXXXXXXX
6	SV6F6 SV5-6-XXXXXXXXXX
7	SV7F7 SV5-7-XXXXXXXXXX
8	SV8F8 SV5-8-XXXXXXXXXX
ARW:SELECT 0:AUTO SCAN	
ENT:SET ESC:EXIT	
TAB:CHANGE NAME	
N:NEXTPAGE	

↓ TAB キー押下で
文字登録

↓ TAB キー押下で
文字登録

SERVER SELECTION	
MASTER	SLAVE
1	PC1-XXXXXXXXXX XXXXX
2	PC2-XXXXXXXXXX XXXXX
3	PC3-XXXXXXXXXX XXXXX
4	PC4-XXXXXXXXXX XXXXX
5	PC5-XXXXXXXXXX XXXXX
6	PC6-XXXXXXXXXX XXXXX
7	PC7-XXXXXXXXXX XXXXX
8	PC8-XXXXXXXXXX XXXXX
ARW:SELECT 0:AUTO SCAN	
ENT:SET ESC:EXIT	
TAB:CHANGE NAME	
N:NEXTPAGE	

SERVER SELECTION	
MASTER	SLAVE
1	SV1F1 SV5-1-XXXXXXXXXX
2	SV2F2 SV5-2-XXXXXXXXXX
3	SV3F3 SV5-3-XXXXXXXXXX
4	SV4F4 OSV5-4-XXXXXXXXXX
5	SV5F5 SV5-5-XXXXXXXXXX
6	SV6F6 SV5-6-XXXXXXXXXX
7	SV7F7 SV5-7-XXXXXXXXXX
8	SV8F8 SV5-8-XXXXXXXXXX
ARW:SELECT 0:AUTO SCAN	
ENT:SET ESC:EXIT	
TAB:CHANGE NAME	
N:NEXTPAGE	

マスター側登録名称変更例

スレーブ側登録名称変更例

(本装置単体のときも同様、但し青色部分未表示)

【画面の説明】

カーソルキーでサーバを切り替えるのと同様に、名称を登録・変更したいサーバを選択します。

<Tab>キーを押します、文字列が黄色に変化し、1文字だけ黄色の背景となります。

キーボードでサーバ名称を入力して、<Enter>キーを押すと登録・変更されます。

キーで1文字削除、<BS>キーで後退します。

もし、登録を中止したい場合は<ESC>キーを押すと、登録を開始する前の画面に戻ります。

サーバの名称登録文字数は最大 14 文字です。登録できる文字は、
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ1234567890,./[:]+x-及び<スペース>
の 46 文字です。

6.5.4 サーバ名称の常時表示機能

本装置はサーバの通常運用時に<Shift>キーを押下しながら<Scroll Lock>キーを2回押すことにより、現在表示中のチャンネルのサーバ名称が常時コンソール画面左上に表示することができます。

サーバ名称を常時表示中に<Shift>キーを押下しながら<Scroll Lock>キーを2回押すことによりサーバ名称は非表示にできます。

本装置の初期状態は非表示状態です。

ホットキーモード及びオートスキャン中では、サーバ名称は表示されません。

ホットキーモードで<Shift>キーを押下しながら<Scroll Lock>キーを2回押してもサーバ名称の表示/非表示を切り替えることはできません。

表示/非表示の設定はOSD及びセレクトスイッチでの切り替えをおこなった後もそのまま残ります。

FS-10xシリーズ(従来製品)と本装置をカスケード接続する場合には、その接続状態により一部または全てのサーバ名称を常時表示できません。

- ・ 常時表示未対応品の装置をマスターに接続している場合は、全てのサーバ名称が常時表示できません。
- ・ 常時表示未対応品の装置がスレーブに接続されている場合は、該当装置が接続されているチャンネルのみ常時表示できません。

6.5.5 EDID設定モード

本装置は<Ctrl> + <Alt> + <Shift>及び<Scroll Lock>を 2 回押下してホットキーモード A に入った後<N>キーを押下することによってカスタマーモードに入ります。



最上段より EDID 設定モード
最下段に現在のファームウェアのバージョンを表示します。

この状態で<ENTER>キーを押下すると文字背景が紫色になり、コンソールポートに接続されたモニタから EDID 情報を読み取り内蔵の ROM に書き込みます。
書き込みが終了すると PNP MONITOR と表示します。
モニタから読み取れなかったときは、DEFAULT MONITOR と表示して、内蔵 ROM には「00」を書き込みます。
新しいモニタを接続したときに設定をおこなうと、それ以後は自動的に内蔵 ROM より各サーバへ通知します。

EDID 設定モードは次の方法で終了します。
<P>キーを押下することによりサーバ選択画面に戻ります。
<ESC>キーを押下することによりホットキーモードを抜け通常の画面に戻ります。

Point

- ・出荷時には、17 型 LCD（本装置）の EDID 情報が設定されています。
 - ・カスケード接続無しで使用される場合は、EDID 設定は必要ありません。
 - ・他のモニタを接続するとき、またはカスケード接続をするときに EDID 設定をしてください。
-

6.6 本製品の格納

モニタを使用しない場合は、本製品をラックに格納することができます。

ハンドルを持って一旦一番手前まで引き出します。

モニタ部を閉じます。

ハンドルを持って奥まで押し込みます。

ラッチレバーが掛かったことを確かめます。

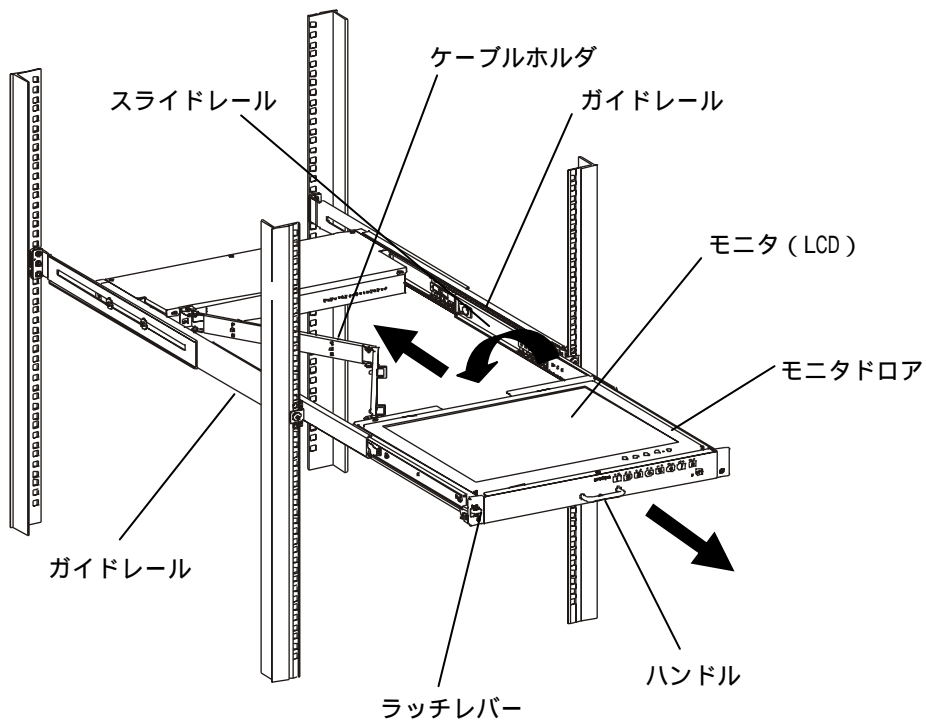


注意

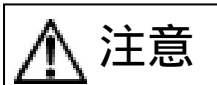
- ・本製品を格納する場合、ガイドレールやスライドレール、本製品本体に指や手を挟まないように注意してください。
- ・ラッチレバーが掛かっていないと、ラックを動かしたときに、本製品が出てくる可能性があります。

Point

- ・モニタをご使用にならないときは、省電力のためモニタの電源を切ることが推奨します。モニタの電源を切っても、キーボード、マウスへは電源が供給されていますので、サーバの動作は問題ありません。



6.7 本装置のお手入れ



- ・お手入れをするときは、モニタの電源を切り、電源ソケットから電源プラグを抜いてください。
- ・研磨剤を含む清掃剤や、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤、消毒用アルコールは使用しないでください。
- ・水や洗剤、スプレー式のクリーナーを直接かけないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

モニタドリア本体とモニタの筐体を乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときには、水にうすめた家庭用洗剤を浸したやわらかい布をよく絞って拭きとってください。ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

モニタ画面は、ガーゼなどの乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

7. 技術仕様

項目		仕様		
型名		FD-M008AT FD-M008AT/W	FD-M016AT FD-M016AT/W	
サーバ接続台数		最大 8	最大 16	
但し、カスケード接続にて拡張可能				
サーバ選択方式		OSD 表示 (ホットキーモード)、セレクトSW		
ホットキーモード		マニュアル(キー操作) / オートスキャンモード		
オートスキャン周期		3/5/10/20/40/60 秒 (初期値: 10 秒)		
LED 表示		電源 (緑)	1	
		サーバセレクト(緑)	8 16	
		サーバ電源 (緑)	8 16	
K V M ス イ ッ チ	インター フェース	キーボード	PS/2 キーボードインターフェース(OADG 準拠)	
		マウス	PS/2 マウスインターフェイス(OADG 準拠)	
		USB	USB 1.1 準拠	
	コンソ ール ポ ー ト	キーボード	PS/2、Mini DIN 6P メス ×1 (紫色)	
		マウス	PS/2、Mini DIN 6P メス ×1 (緑色)	
		モニタ	Mini D-SUB 15P メス ×1 (青色)	
	サーバポート	Mini D-SUB 15P メス × 8 (黒色)	Mini D-SUB 15P メス × 16 (黒色)	
モ ニ タ	パネルタイプ	17 インチ TFT カラー液晶		
	解像度	最大 水平 1280 (ドット) × 垂直 1024 (ライン)		
	ドットピッチ	0.264 × 0.264mm		
	リフレッシュレート	最大 75Hz		
	ビデオ信号	アナログ RGB / セパレートシンク / コンポジットシンク		
	表示色	最大 1,677 万色 (ディザリング)		
	輝度	250cd/m ² (Typ)		
	コネクタ	ミニ D-SUB 15 ピン オス (アナログ RGB)		
キーボード/マウス供給可能電流		300mA	150mA	
電源電圧		AC100 ~ 240V		
周波数		50/60Hz		
定格電流		0.65A/100V , 0.35A/240V		
消費電力		最大 38W モニタの電源 OFF 時 8.5W 以下		
動作温度 (使用時)		5 ~ 35 (使用時の結露は避けてください。)		
保存温度(非動作時)		0 ~ 50		

項目		仕様
外形寸法	(1)スライドレール縮小時	485mm(W) × 600mm(D) × 42mm(H)
	(2)スライドレール伸張時	485mm(W) × 1080mm(D) × 42mm(H)
	(3)(2) + モニタ 引き起こし時 リア突起部は、除く	485mm(W) × 1080mm(D) × 376mm(H)
構造		金属ケース、塗装 (黒、アイボリー</W 品>)
質量		13.5kg

添付品	取扱説明書 (1部) 保証書 (1部) 100V用電源ケーブル 2m (1本) 電源ケーブル抜け防止用タイラップ (1) フロントブラケット (2個) フロントブラケット取り付けネジ (4本)
-----	---

オプション(別売)

名称	型名	備考
CRT 複合専用ケーブルセット (0.7m)	NC14000-B601	・PS/2 用ケーブル
	NC14000-B101	・USB 用ケーブル
CRT 複合専用ケーブルセット (1.8m)	NC14000-B602	・PS/2 用ケーブル カスケード接続時にも本ケーブルを使用
	NC14000-B102	・USB 用ケーブル
CRT 複合専用ケーブルセット (3.0m)	NC14000-B603	・PS/2 用ケーブル
	NC14000-B103	・USB 用ケーブル
CRT 複合専用ケーブルセット (5.0m)	NC14000-B605	・PS/2 用ケーブル
	NC14000-B105	・USB 用ケーブル
IBM X330 用ケーブル	NC14000-B652	・1.8m ケーブル
	NC14000-B653	・3m ケーブル
	NC14000-B655	・5m ケーブル

ガイドレール (別売)

型名	ラック取り付け穴	備考
NC14003-T591	M6 タップ有り	M6 ネジ添付 前後からの取り付け
NC14003-T592	長穴タップなし	M5、M6 ネジ添付 前後からの取り付け
NC14003-T592/N	長穴タップなし	T592 + スパ - サ + 皿ネジ (M5) × 4 個 + M5 ネジ 2 本添付
NC14003-T593	長穴タップなし	M5、M6 ネジ付 サイドからの取り付け
NC14003-T593/T	長穴タップなし	T593 (M6 ネジ 除) + ラック幅 485.4mm 対応品

8. トラブル対策

8.1 画面が表示されない

症 状	考えられる原因	対処方法
電源ランプが消灯している。	電源ケーブルが正しく接続されていない。または奥迄確実に接続されていない。	電源ケーブルを正しく奥まで確実に接続してください。
	電源ボタンが入っていない	電源ボタンを入れてください。
	電源ボタンを OFF した。電源ランプ(緑色)消灯	電源ボタンを ON する
	サーバからの画像信号がない(サスペンド状態)	サーバからの画像信号を入力する
電源ランプがオレンジ色に点灯している。またはMENU/ENTERボタンを押すと「POWER SAVING」のメッセージが表示される。	サーバがスタンバイ状態になっている。	キーボードのどれかのキーを押すかマウスを動かしてください。スタンバイ状態が解除されます。
	モニターケーブルがサーバ本体に、正しく接続されていない。	サーバ本体にモニターケーブルを正しく接続してください。
電源ランプが点灯するが、画面が表示されない。 場合によっては以下のメッセージも表示される。 「OUT OF RANGE H:***kHz V: H:***kHz SEE USER 'S MANUAL」 「NO SYNC SIGNAL SEE USER 'S MANUAL」	標準表示仕様以外の解像度とリフレッシュレートになっている。	サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度とリフレッシュレートに変更してください。
	サーバ本体より後に本製品の電源を入れた。	サーバ本体と同時またはそれ以前に本製品の電源を入れてください。
	モニターケーブルが、サーバ本体に正しく接続されていない。	サーバ本体にモニターケーブルを正しく接続してください。

8.2 画面調節ができない

症 状	考えられる原因	対処方法
AUTO/EXITボタンによる自動調整ができず、以下のメッセージが表示される。 「AUTO ADJUSTMENT FAILED SEE USE ' S MANUAL」	画面全体が極端に暗い色に設定された状態で自動調整が行われた。	表示画面全体を出来るだけ白画面にして、AUTO/EXITボタンを押して自動調整を行ってください。
「UNSUPPORTED MODE SEE USE ' S MANUAL」	標準表示仕様以外の解像度とリフレッシュレートになっている。	メニュー画面のインフォメーションにより、現在表示されている解像度とリフレッシュレートを確認し、サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度(モード)に変更してください。

8.3 画面がおかしい

症 状	考えられる原因	対処方法
格子状の表示画面がちらつく。	フォーカスが合っていない。	フォーカスを調整してください。
縦帯状の縞模様が見えることがある。	画面の調節が適切でない。	クロックの調整をしてからフォーカスの調整をしてください。
黒画面表示中に画面にノイズが見られる	サーバからのビデオ信号にノイズがある	OSDのBlack Levelを下げてください。
表示がはみ出る。 または、画面いっぱいに表示されない。	画面位置の調節が適切でない。	クロックの調整を行ったあとに画面位置の調整を行ってください。
	標準表示仕様以外の解像度(モード)になっている。	サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度(モード)に変更してください。
画面が消えることがある。	電源ケーブルが奥まで確実に接続されていない。	電源ケーブルを奥まで確実に接続してください。
文字の太さが場所によって異なる。	フォーカス、クロックの調整が適切でない。	クロックの調整をしてからフォーカスの調整をしてください。
	1280×1024より低い解像度になっている。	デジタル処理で擬似的に拡大処理しているので文字の太さが異なる場合があります。最適な画面するには「画面のプロパティ」で解像度を1280×1024に設定してください。
画質が劣化する (ゴーストや文字のジミ等)	接続/ケーブル不良	コネクタの接続を確認する 別ケーブルと交換し、問題が解決したら、良品ケーブルに交換する
切替えると画面がずれたり、表示できない	解像度が違う	解像度を合わせるか、モニタ側で調整する
	本装置以外のモニタ接続時のモニタ未対応/同期が取れない	対応(マルチンク)モニタにする モニタ側で調整する

8.4 その他

症 状	考えられる原因	対処方法
キーボード、マウスの動作がおかしい / 動作しない	キーリピートがおかしい	サーバのキーリピートスピードの設定を変更してください
	キーボード、マウスのコネクタ接続が、はずれた	サーバのキーボード、マウスに接続してください。
	キーボード、マウスのコネクタ接続が、逆に接続されている	サーバのキーボード、マウスに正しく接続してください。
	サポート外のキーボード、マウスを接続	サポート内のキーボード、マウスに交換する
	ホットキーモードが終了しない	[Enter]か[ESC]キーを押す
今まで動いていたのに突然動かなくなった	接続が外れた	接続を確認し、再起動する
	切替器がハングアップした	リセットスイッチを押す
	サーバに不具合が発生した	サーバの不具合を直す
オートスキャンモードにならない	ホットキーモードになっていない	ホットキーモードにし、数字キー(0)を押す
	キーが間違っている	数字キー(0)を押す
ホットキーモードで切替えできない	キーが間違っている	1 段目は数字(1~8) 2 段目は F1 ~ F8 を押す
オートスキャンの切替周期がおかしい	切替周期が調整されていない (初期値 10 秒)	カーソルキー(,)で調整する
カスケードを認識しない	切替器に不具合が発生した	リセットスイッチを押す (スレーブ、マスター両方)
OSD 表示が、5 秒周期で点滅となる	サーバからの画像(H/V Sync)信号が無い(サスペンド状態)	画像(H/V Sync)信号を入力する。または、画像(H/V Sync)信号の有るサーバに切替える

モニタドドア [FD-M008AT、FD-M008AT/W、FD-M016AT、FD-M016AT/W]

取扱説明書

発行日 2005 年 12 月 第 1 版発行

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の
侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。

この説明書は再生紙を使用しています。

NC14004-L561_01_060117